

## テーマ研究報告書

# AI活用によるアプリケーション開発

### 【構成メンバー】

- ・鈴木 克彦 :リーダー
- ・田島 彰二
- ・木村 敦
- ・松田 隆
- ・加瀬 雄大

1. テーマ研究とその背景
2. テーマ研究の目的
3. AIアプリ開発の要件定義
4. 要件定義に基づくAI内でのアプリ開発
5. 開発したアプリのデプロイの課題
6. AIアプリのデプロイ方法
7. 事業支援におけるAI活用で知っておくべきポイント
8. 最後に

## 背景

生成AI技術は、私たちの生活やビジネスに大きな変革をもたらしている。ITコーディネータにとっても、この技術を理解し、適切に活用することは、顧客のDXを支援するうえで不可欠なスキルとなりつつある。

前回はプロンプト、RAGの支援までを検討した。本年度はAIを活用したアプリ開発を自ら実践することでITコーディネータの資質と知見をたかめる研究を実施する。



AIによるアプリ開発にチャレンジ

### 目 的

本研究では、生成AIを利活用したアプリ開発を実践することで、アプリ開発の成功・失敗要因を明らかにする。

これにより、ITコーディネータが、顧客に対してより実践的かつ効果的な提案を行えるようにする。



- 研究テーマを通してITコーディネータのAI導入支援力向上に貢献
- 「AIアプリ開発の実例」を示す
- 開発アプリで作成する報告書はITコーディネータの活動で  
実用できるレベルをめざす



- 1.生成AIを用いたアプリ開発の過程を見える化
- 2.開発するアプリはそれ自体が生成AIを活用する仕様

2025年9月～ AIを用いて開発するアプリの要件定義を作成

- 成果物は「報告書を作成するAIアプリ」
- 要件定義をGemini 2.5を用いて作成

<https://gemini.google.com/share/8ea21174f27e>

## 要件定義

### 報告書テンプレートの公開要件定義書

#### 1. はじめに

本ドキュメントは、作成された「中小企業IT支援 専門家派遣 報告書テンプレート」を、AI (Gemini) を活用したアプリケーションで公開・運用するための要件を定義するものです。

#### 2. 目的

専門家が、このテンプレートを効率的に利用し、高品質な報告書を迅速に作成できるようにする。具体的には、「入力の手軽化」「AIによる執筆支援」「出力フォーマットの多様化」を実現します。

#### 3. 機能要件

##### 3.1 テンプレート機能

テンプレート表示: ユーザーがブラウザ上でテンプレートを開覧・選択できること。

入力フォーム: 各項目（報告者、派遣先、内容など）が入力しやすいフォーム形式であること。

保存機能: ユーザーが入力途中の内容を保存し、後で編集を再開できること。

##### 3.2 AI (Gemini) 連携機能

自動骨子生成: 入力された「訪問目的」や「相談内容」に基づき、Geminiが「対応内容詳細」の骨子を自動生成する機能。

文章生成支援: 箇条書きで入力された内容を、Geminiが自然な文章に変換する機能。

はじめに記載したプロンプト  
「報告書テンプレートの要件定義を  
記載してください」



AIが要件定義を生成

## 要件定義

### 🧠 要件定義の評価と重要なポイント

この要件定義書は、目的達成のために必要な機能（機能要件）と、システムの信頼性・使いやすさ（非機能要件）の両面を過不足なくカバーしています。特にAI（Gemini）連携機能が、本プロジェクトの核であり、明確に定義されている点が優れています。

#### 1. AI連携機能（本プロジェクトの核心）

機能名	開発における重要性	補足・提案
自動骨子生成	☆☆☆ 最重要	プロンプトエンジニアリングの成否がツールの価値を決定します。特定の「訪問目的」「相談内容」のパターンに対して、質の高い骨子を返すロジックが必要です。
文章生成支援	☆☆☆	ユーザーが入力する箇条書きの粒度を想定し、自然で報告書らしいトーンの記事を生成するように指示するプロンプト設計が不可欠です。
要約・校正支援	☆☆	校正では、誤字脱字に加え、専門家の報告書として論理的な一貫性があるかをチェックするロンプトが望ましいです。
専門用語の補完	☆☆	提案された用語をワンクリックで挿入できるUI/UXを検討することで、入力の手間を大幅に削減できます。

AIが要件定義を「評価」



AI連携が開発の鍵

## 非機能要件の提案 機能要件の補足の提示

非機能要件：「使いやすさ」

### 2. 非機能要件：パフォーマンスとセキュリティ

- **応答速度 (3秒以内)**：AI連携機能において、この速度を維持できるかが鍵です。Gemini APIへのリクエストと応答処理を非同期で行い、ユーザーに「処理中」であることが伝わるUI設計が重要になります。
- **データ保護**：専門家の機密情報や企業の相談内容が含まれるため、\*\*通信 (TLS/SSL) と保存データ (暗号化) \*\*の両面で最高水準の保護策が必須です。

非機能要件までAIが提示

### 各要件を具体化するための補足事項

#### 3. 機能要件に関する追加検討

要件カテゴリ	項目	具体的な検討事項
3.1 テンプレート機能	入力フォーム	必須項目の明確化と、フォームの入力値に応じたバリデーション (エラーチェック) の定義が必要です。
3.3 出力機能	PDF出力	複数のテンプレートデザイン (例：標準、簡易版など) の切り替えニーズがあるかを確認します。
3.4 ユーザー管理機能	認証機能	シングルサインオン (SSO) や二要素認証の導入可否を決定し、セキュリティを強化すべきです。

### 1. 基本情報

報告者名  
専門家 太郎

派遣先企業名  
〇〇株式会社

訪問日  
2025/11/08

### IT支援報告書作成アシスタント

コード  プレビュー

### 2. 訪問情報と相談内容

訪問目的  
ヒアリングによる現状課題の特定とIT導入の方向性検討。

相談内容の詳細（企業側からの課題提示）  
(箇条書き可)  
・営業管理が紙ベースで非効率  
・顧客データが分散しており、共有が困難

## 生成される報告書テンプレート

### IT支援報告書作成アシスタント

コード  プレビュー

### 3. 協議内容と対応詳細 (AI支援)

協議内容（専門家と企業間の具体的な議論内容）  
(箇条書き可)  
・CRM導入の費用対効果について議論し、初期コストと5年間の運用コストを提示した。  
・部門間のデータ連携方法について、現状のExcelファイル共有の限界を指摘。

AI骨子生成 (目的・相談・協議内容から)    AI文章整形 (箇条書きを变换)

対応内容詳細（専門家が実施した具体的な行動）  
AI骨子生成ボタンを押すか、対応内容を箇条書きで入力してください。

AIによる「骨子」の作成

### Gemini にプロンプトを投入して開発を開始

上記を基に専門家派遣の報告書アプリを開発したい

- ◆ ご要望に基づき、「中小企業IT支援 専門家派遣 報告書テンプレート」の要件を満たすWebアプリケーションをReactとTailwind CSS、そしてFirebase/Gemini APIを用いて開発します。

このアプリケーションは、入力、リアルタイム保存（Firestore）、そしてAIによる骨子生成や文章支援機能（Gemini API）を備えたシングルファイルアプリケーションです。

下記のファイルは、一つのReactコンポーネントで構成されており、ブラウザで実行可能です。

#### アプリケーションの概要

このアプリケーションは、定義された要件に基づいて以下の主要な機能を提供します。

##### 1. 認証・ユーザー管理:

- 起動時に自動的にFirebaseに認証（提供されたトークンまたは匿名認証）し、ユーザーを特定します。
- 画面左上に現在の\*\* `userId` \*\*が表示され、個人のデータ管理領域を保証します。

報告書アプリを開発したい！

<https://gemini.google.com/share/8ea21174f27e>

### AI開発では会話形式でのプロンプト・コミュニケーションで開発を進められる

📄 Google スプレッドシートにエクスポート



この要件定義に基づき、まずは**AI連携のプロトタイプ**（特に自動骨子生成）を開発し、その効果とレスポンス速度を検証することが、プロジェクトの成功に繋がるでしょう。

会話（プロンプト）による進行

上記を基に専門家派遣の報告書アプリを開発したい

報告の項目として  
協議内容の項目と  
専門家の意見の項目は分けてほしい

文字だけだと想像できないので上記説明を図で説明してください

## AIによるコード生成

IT支援報告書作成アシスタント

✓ コード    プレビュー

コード スニペット

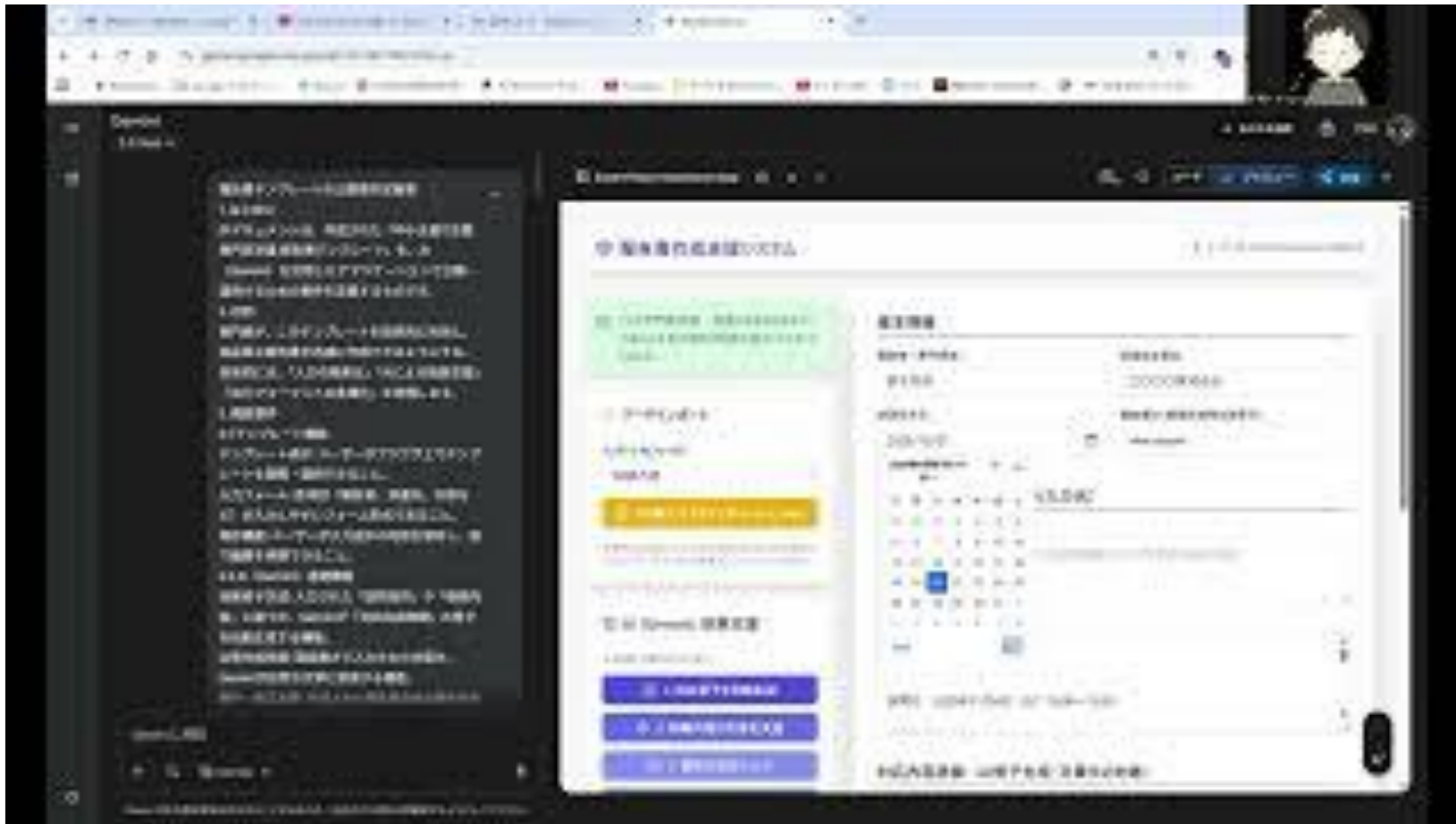
```
import React, { useState, useEffect, useCallback, useMemo } from 'react';
// Firebaseのインポート
import { initializeApp } from 'firebase/app';
import { getAuth, signInAnonymously, signInWithCustomToken, onAuthStateChanged } from 'firebase/auth';
import {
  getFirestore,
  doc,
  getDoc,
  setDoc,
  collection,
  query,
  onSnapshot,
  getDocs,
  Timestamp,
  deleteDoc
} from 'firebase/firestore';

// --- Firebaseと環境変数の設定 ---
```

AIによるコード進行



## gemini生成Aiアプリ動作

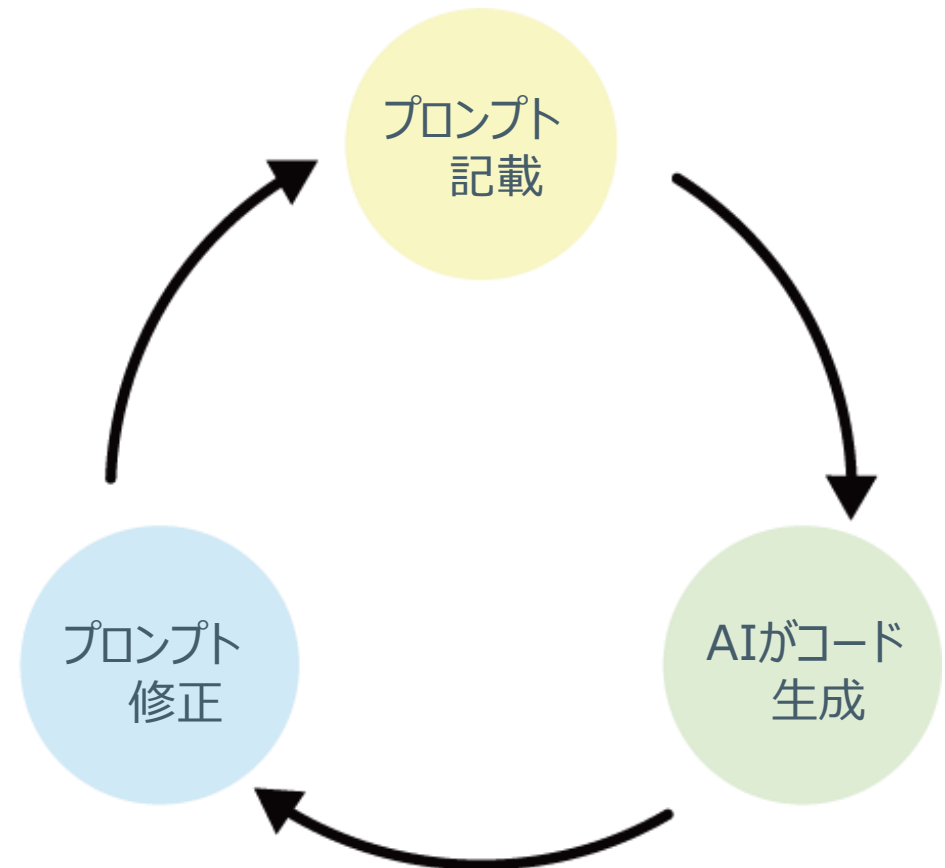


### AIアプリ開発のサイクルイメージ

要件定義を基にアプリ開発を開始



- プロンプトによる開発指示
- AIによるコード生成
- コミュニケーション形式による
- プロンプトとブラッシュアップ



## プロンプトを意識せずにわからないことを素直に質問する

アプリ開発をしたいのですが

はじめのプロンプト

- ◆ アプリ開発を始めたいんですね！素晴らしいです。アプリ開発には様々な選択肢があるので、まずは何をしたいか、どんなアプリを作りたいかを考えるとスムーズに進められます。

### 開発の第一歩

まず最初に考えるべきなのは、どのプラットフォーム向けに開発するかです。

- **iOS:** iPhoneやiPadなどApple製品向けのアプリ。SwiftやObjective-Cといった言語を使います。
- **Android:** Androidスマートフォンやタブレット向けのアプリ。JavaやKotlinといった言語を使います。
- **Webアプリ:** ブラウザで動くアプリ。HTML, CSS, JavaScriptといった言語を使います。特定のOSに依存しないので、多くのユーザーにリーチできます。

もちろん、一つのソースコードでiOSとAndroid両方のアプリを作る**クロスプラットフォーム開発**という選択肢もあります。これには、FlutterやReact Nativeといったフレームワークがよく使われます。

### 学習を始めるには

プラットフォームを決めたら、次に**学習方法**を考えましょう。

- **オンラインコースやチュートリアル:** UdacityやCoursera、あるいはYouTubeなどには、初心者向けの無料・有料のコースがたくさんあります。



「アプリを開発したいです」

### 実装フェーズ（デプロイ）への移行が課題

- 2025年10月  
AI環境（Gemini2.5）を用いた報告書テンプレート  
AIアプリの生成は可能であることがほぼ判明



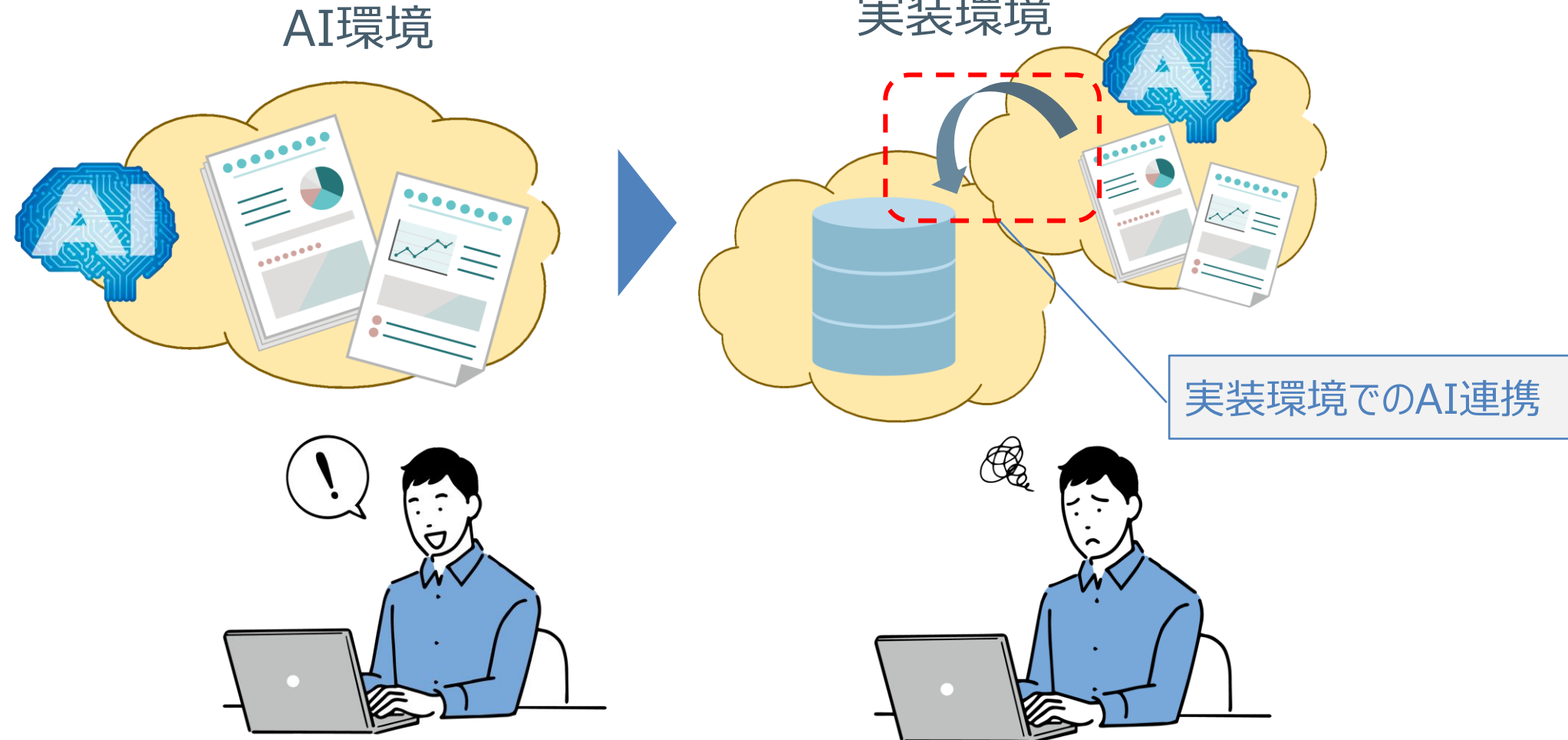
- 2025年10月以降  
AI環境以外でのアプリケーション実装（デプロイ）に課題



実装フェーズ（デプロイ）への移行はAIの指示どおりに進まない

AI環境

実装環境



「報告書テンプレートAIアプリ」の概念図を生成AIで作成し  
実装に必要な要素を整理

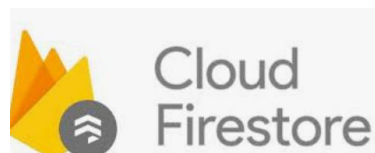
### 実装したデプロイ図

フロントエンド

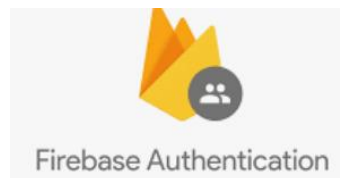


HTML CSS

クラウドベース



認証



セキュリティ

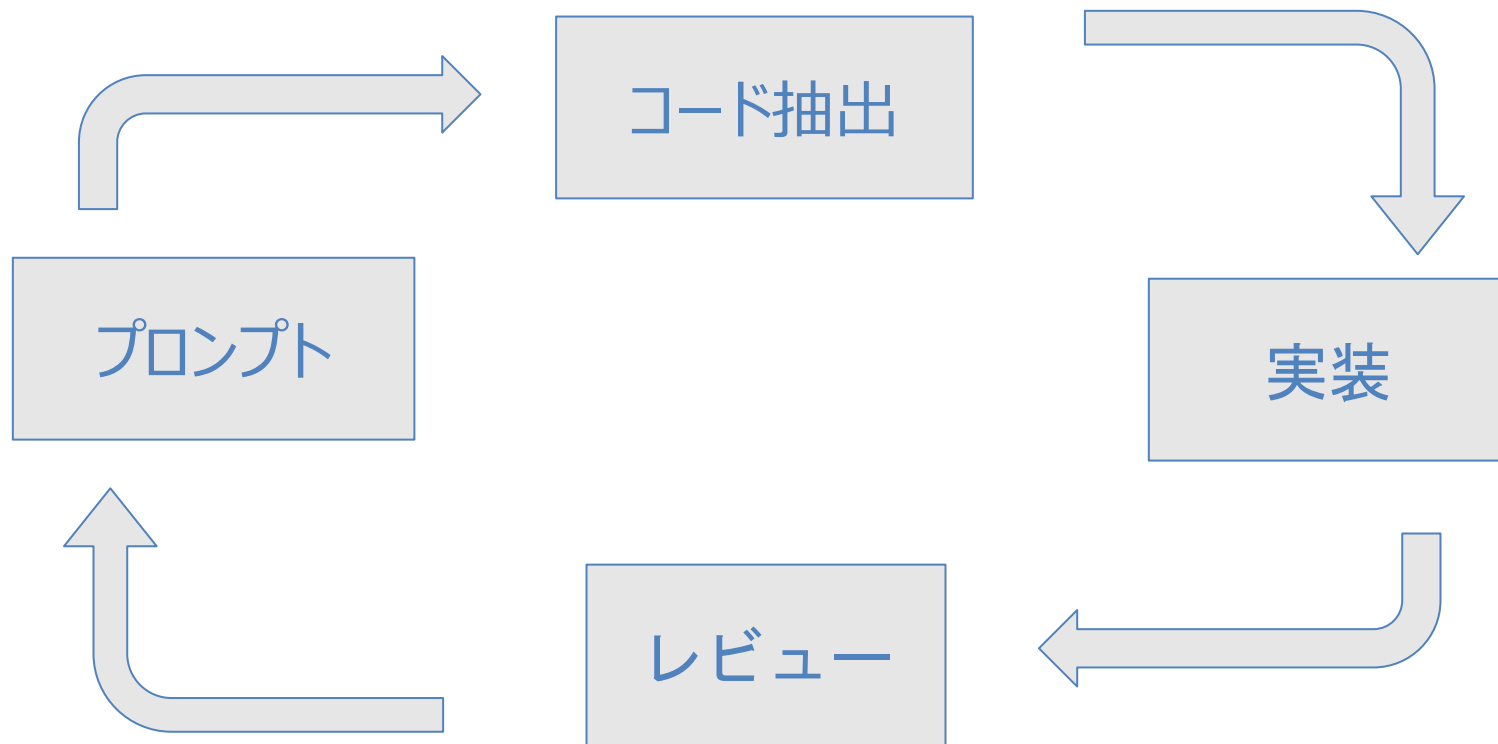
ホスティング



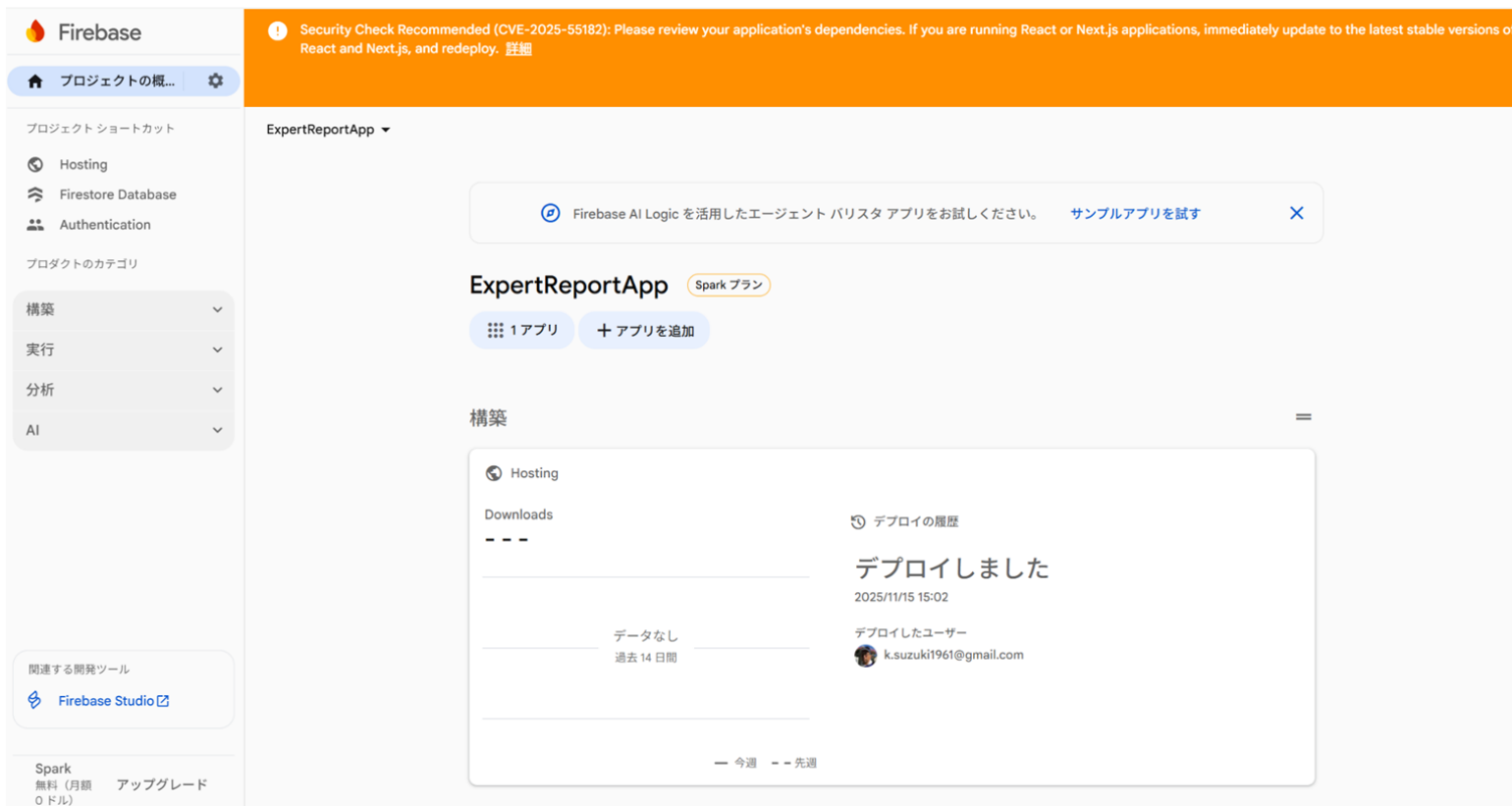
AI 処理



## 生成AIとのコミュニケーション



## デプロイの実施画面



Security Check Recommended (CVE-2025-55182): Please review your application's dependencies. If you are running React or Next.js applications, immediately update to the latest stable versions of React and Next.js, and redeploy. [詳細](#)

ExpertReportApp

Hosting

Firestore Database

Authentication

プロジェクトのカテゴリ

構築

実行

分析

AI

関連する開発ツール

[Firebase Studio](#)

Spark  
無料 (月額 0ドル)    アップグレード

Firestore AI Logic を活用したエージェント バリスタ アプリをお試しください。 [サンプルアプリを試す](#)

ExpertReportApp Spark プラン

1 アプリ    + アプリを追加

構築

Hosting

Downloads

データなし  
過去 14 日間

デプロイの履歴

デプロイしました  
2025/11/15 15:02

デプロイしたユーザー  
k.suzuki1961@gmail.com

今週    先週

<https://expertreportapp.web.app/>

## ⚙️ 報告書作成支援システム

🔍 ユーザーID: YAw3c7hcimRD6mzMwpeFDOGbpIj1

✔️ 報告書ID: new-report のデータをロードしました。

### 📁 データインポート

インポート先フィールド:  
(自動抽出機能が有効です)

相談内容

📄 メモ帳ファイルをインポート (.txt/.md)

※メモ帳に「日時:YYYY/MM/DD」や「企業名:XXX」と記述すると自動抽出されます。

### 🧠 AI (Gemini) 執筆支援

※処理には数秒かかります。

- 📄 1. 対応骨子を自動生成
- 🔗 2. 詳細内容の文章化支援
- ✔️ 3. 要約 & 校正チェック
- 🗨️ 4. 専門用語の補完

### 基本情報

報告者 (専門家名)	派遣先企業名
鈴木克彦	株式会社ABC
派遣年月日	報告書ID (新規作成時は変更可)
2025/11/15	new-report

### 派遣の目的と相談内容 (AI入力元)

訪問目的

事業者のWEB集客支援のための助言

相談内容

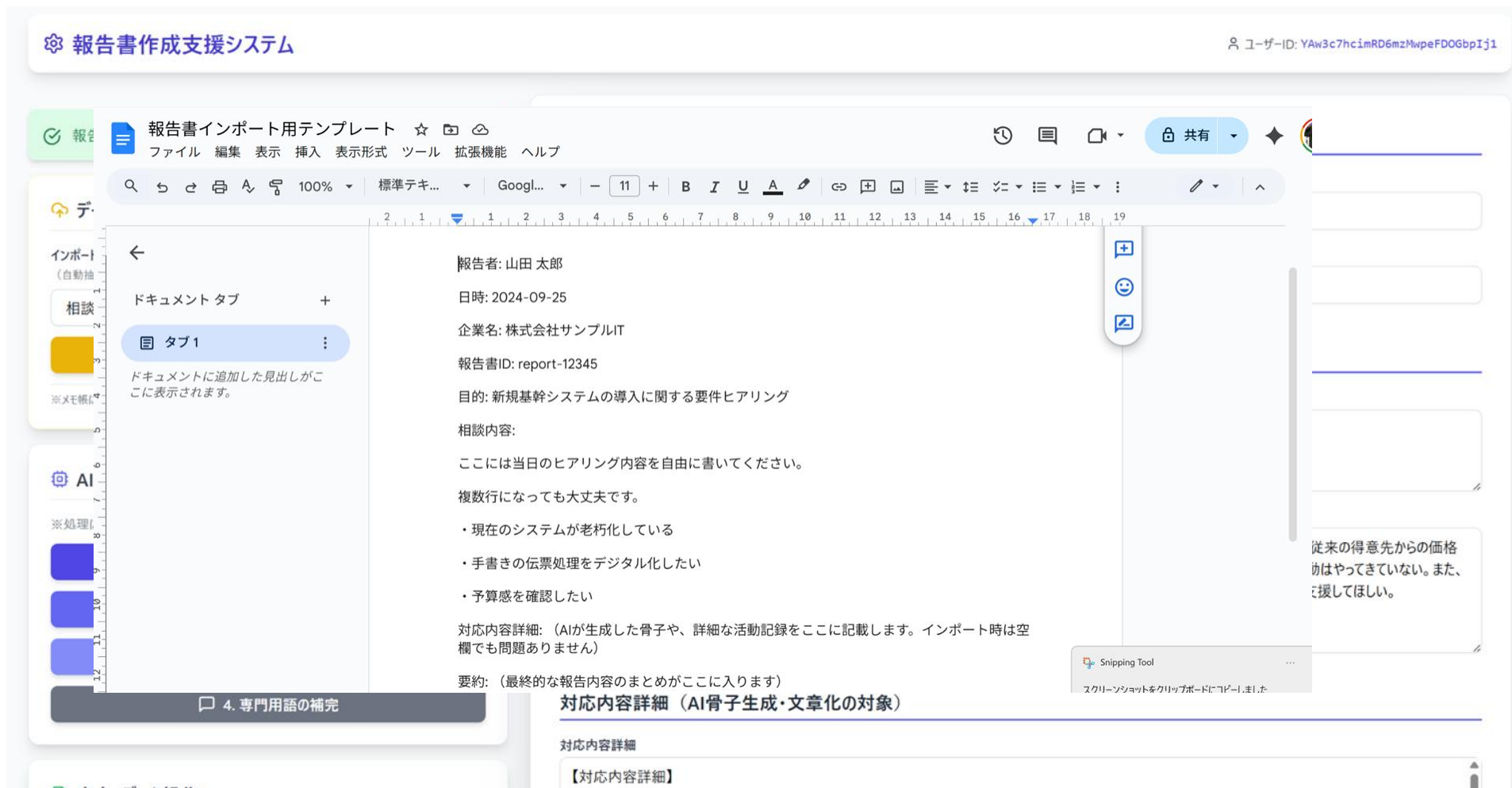
現在、金属加工の仕事の請け仕事を行っている。ここまですと固定した得意先の仕事をこなしてきたが、経済環境の大きな変化で従来の得意先からの価格交渉や品質基準要求それに反した売上減少という厳しい状況の中、新たな仕事先の獲得が必要になってきたが、いまだ営業活動はやってきていない。また、営業人材のいない中、WEBを活用した新規獲得ができる仕組みを構築したいので、その支援をしてほしい。また、補助金の活用も支援してほしい。

### 対応内容詳細 (AI骨子生成・文章化の対象)

対応内容詳細

【対応内容詳細】

<https://expertreportapp.web.app/>



**報告書作成支援システム** ユーザーID: YAw3c7hcimRD6mzMwpeFDOGbpIj1

報告書インポート用テンプレート ☆ 📄 ☁  
ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 ツール 拡張機能 ヘルプ

100% 標準テキ... Googl... - 11 + B I U A

インポート (自動抽) 相談 タブ1

報告者: 山田 太郎  
日時: 2024-09-25  
企業名: 株式会社サンプルIT  
報告書ID: report-12345  
目的: 新規基幹システムの導入に関する要件ヒアリング  
相談内容:  
ここには当日のヒアリング内容を自由に書いてください。  
複数行になっても大丈夫です。  
・現在のシステムが老朽化している  
・手書きの伝票処理をデジタル化したい  
・予算感を確認したい  
対応内容詳細: (AIが生成した骨子や、詳細な活動記録をここに記載します。インポート時は空欄でも問題ありません)  
要約: (最終的な報告内容のまとめがここに入ります)

4. 専門用語の補完

**対応内容詳細 (AI骨子生成・文章化の対象)**

対応内容詳細

【対応内容詳細】

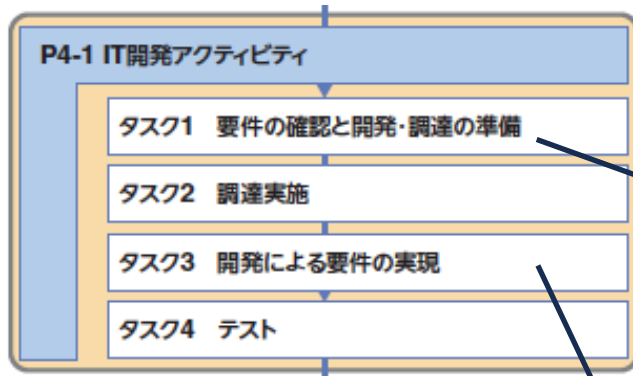
従来の得意先からの価格がはやってきていない。また、ご支援してほしい。

Snipping Tool  
スクリーンショットをクリップボードにコピーしました

# 7. 支援活動におけるAI活用で知っておくべきポイント

## 7.1 今回のテーマ研究にて分かったアプリ開発でのポイント

IT開発プロセス（出典：ITCPGL4.0）



### 生成AIの活用

#### ○要件定義の深化

専門知識が不足している領域や不明確な点についてAIに対して率直に質問を投げかけることで、的確な回答や新たな視点を引き出すことができる

#### ×コンテキストの過学習

プロンプトによる指示を繰り返すことで精度は向上する反面、AIの回答視野が狭まり、大局的な視点や代替案が欠落する傾向あり

#### ○実装速度の革新

コード生成においてAIは極めて高いパフォーマンスを発揮し、開発時間を劇的に短縮できる

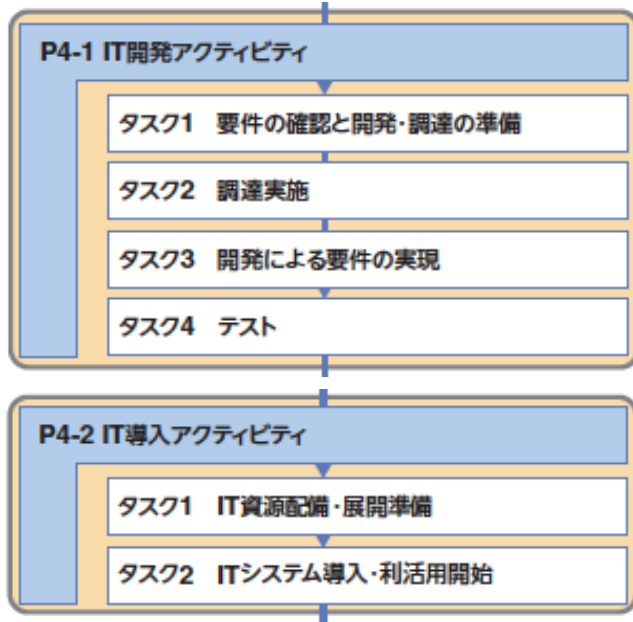
#### ×AI指示の限界と失敗リスク

AIが提示する設計や手順は論理的に正しくとも、プロジェクト固有の制約や環境要因を考慮していない場合あり

# 7. 支援活動におけるAI活用で知っておくべきポイント

## 7.2 業務アプリ開発におけるAI活用トレンド

IT開発・導入プロセス（出典：ITCPGL4.0）



生成AIの活用（出所：日経BPムック「生成AIがもたらす開発プロセス革命」）

### 【設計】

- ・設計の相談、壁打ち
- ・開発ドキュメントの生成

### 【プログラミング】

- ・コード生成

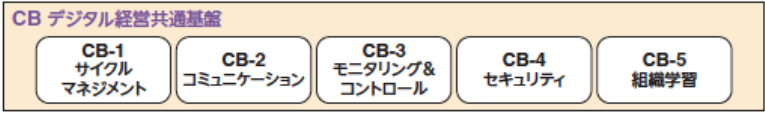
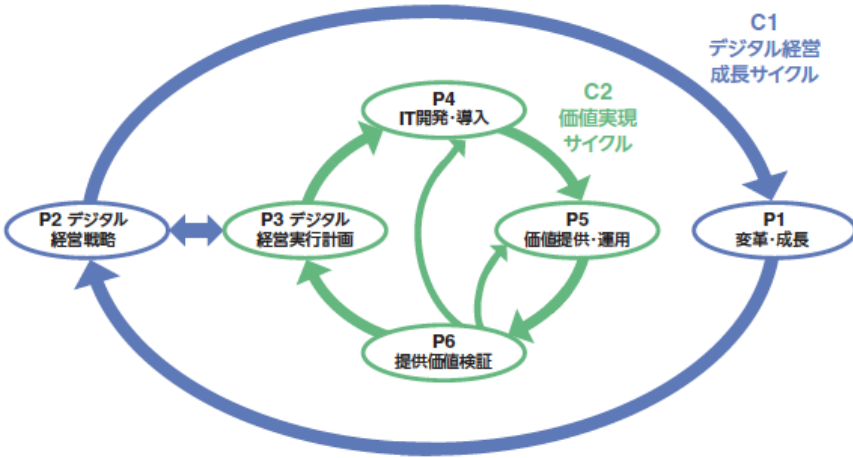
### 【テスト】

- ・試験計画の生成
- ・テストコードの生成や修復

# 7. 支援活動におけるAI活用で知っておくべきポイント

## 7.3 ITCの各プロセスでもAI活用が進む

デジタル経営プロセス全体像（出典：ITCPGL4.0）



凡例 C: サイクル(C1, C2) P: プロセス(P1~P6) CB: 共通基盤

### 生成AI・AIEージェントの活用

1. デジタル経営成長サイクル (C1) での活用
  - P1 変革・成長プロセス  
外部環境の分析予兆検知、アイディア創出（壁打ち）
  - P2 デジタル経営戦略プロセス  
シナリオプランニング、ビジョン・モデルの言語化
2. 価値実現サイクル (C2) での活用
  - P3 デジタル経営実行計画プロセス  
業務プロセスの設計、ソリューション調査
  - P4 IT開発・導入プロセス  
開発の高速化・自動化、ローコード/ノーコード活用
  - P5 価値提供・運用プロセス  
顧客対応の自動化、業務の自律実行
  - P6 提供価値検証プロセス  
フィードバック分析
3. デジタル経営共通基盤 (CB) での活用
  - CB-2 コミュニケーション  
会議の議事録作成、要約、多言語翻訳
  - CB-5 組織学習  
社内専用AIメンター

## 7. 支援活動におけるAI活用で知っておくべきポイント

### 7.4 AI活用による（業務アプリ領域における）ビジネスモデルのパラダイムシフト

- ・ SaaSの死  
ID課金モデルの崩壊
- ・ SEO（検索エンジン最適化）の死  
検索（Search）から、回答（Answer/Synthesis）へ
- ・ ジュニア・タスク（下積み業務）の死  
スキルの習得プロセスと人材開発のパラダイムシフト
- ・ UI（ユーザーインターフェース）の死  
画面操作からインビジブル（ユーザー操作の必要ない）コンピューティングへ
- ・ 受託型エンジニアリングの死  
コードが書けること自体の市場価値が急落

### 支援活動での留意点を以下にまとめる

- 学習データに関する注意深い取り扱いの必要性
- 高度なアプリ開発ではなく、日常的な相談相手としてのAI活用を推奨する。
- 著作権や誤った回答もありえることを認識した上で活用する
- AIの普及により知ったかぶりが通用しなくなる一方で、客観的な情報収集能力を持つAIの活用により、より質の高いコンサルティングが可能

## 生成AIプログラム開発時の注意 (1/N)

### プログラム開発時の注意事項

- 0) プログラムの前提となる生成AIの基本ロジックは開発時一番妥当なものを選択すること
- 1) 開発時は開発目的と開発作業時の個々の操作が大きくハズレないように（目的が矮小化しないように）心がける
- 2) 個々の作業時にそれぞれ小さな確認の問題を入れて小さな確認をしながら一歩ずつ進める
- 3) 一段落できたら段落度ごとに段落確認の問題を入れて、段落の動きを確認をする
- 4) 全体が完成したように見えたら十分に様々な問題（ありえない条件も含めて）をいれて正常、異常時の確認も行う。

## 生成AIプログラム開発時の注意 (2/N)

### 生成AI関連の法律、ガイドライン (次頁以降に追加説明)

- 1) ITC協会としては 生成AI研究会から “中小企業向けAI活用ガイド ～生成AIを中心としたAIの戦略的導入～”が出ているので参照下さい。
- 2) 基本的には 人工知能関連技術の研究開発及び推進に関する法律 (AI法) 2025年5月28日成立、6月4日公布を原点とします。
- 3) また、AI事業者ガイドライン (第1.0版) 総務省 経済産業省 2024年4月19日 にも AI開発者、AI提供者、AI利用者に関する事項が規定されているのでそれも参照下さい。
- 4) 最近の動きは AIの開発後押し (米国のGAFA等にオサレ気味な日本の業界を盛り返そう) と違反行為に勧告しやすくするための個人情報保護の一部改正が予定されている。(日経新聞電子版2026/01/8によると)

## ITC 生成AI研究会から 中小企業向けAI活用ガイド ～生成AIを中心としたAIの戦略的導入～

### 中小企業向けAI活用ガイド

生成AIを中心としたAIの戦略的導入

2025年11月18日版

特定非営利活動法人ITコーディネータ協会 生成AI研究会

はじめに

#### 1 中小企業向けAI活用ガイドとは

- 1.1 ガイドの目的と対象読者
  - 1.2 AIとは何か？ 生成AI・認識AI・予測AIの特徴
  - 1.3 AI活用の重要性和ビジネスへの影響
  - 1.4 本ガイドの構成と活用方法
- 第1章のまとめ

#### 2 AI活用シナリオと可能性

- 2.1 ビジネスにおけるAI活用のメリット
  - 2.2 生成AIの活用シナリオ
  - 2.3 認識AI（画像・音声・自然言語処理）の活用シナリオ
  - 2.4 予測AIの活用シナリオ
- 第2章のまとめ

#### 3 企業におけるAI活用の進め方

- 3.1 AI活用における役割と責任
  - 3.2 AI活用成熟度の評価と組織学習
  - 3.3 AI活用の2つのアプローチ
  - 3.4 成熟度に合わせたAI活用戦略とマネジメント
- 第3章のまとめ

#### 4 AI活用のリスクとその対策

- 4.1 AI活用におけるリスクガバナンス
- 4.2 セキュリティとデータプライバシー
- 4.3 法務・契約のポイント

#### 4.4 倫理・説明可能性とバイアス対策

#### 4.5 AI利用に関する社内ルールと教育

第4章のまとめ

### 5 AI活用の具体的な手順

#### 5.1 AI活用サイクルの全体像

#### 5.2 ツール活用型のAI活用サイクル

#### 5.3 システム開発型のAI活用サイクル

#### 5.4 ツール活用型におけるツール選択と考慮事項

#### 5.5 システム開発型での技術選択と考慮事項

第5章のまとめ

### 6 ITコーディネータが推進する中小企業のAI活用

#### 6.1 PGL Ver.4.0と本ガイドの関係

#### 6.2 ITコーディネータの役割と支援方法

第6章のまとめ

### 実践ツール集

AI活用におけるチェックポイント

AI活用実践テンプレート（第1フェーズ用）

AI活用における価値実現サイクルの留意点

組織学習の促進を目的としたAI活用の具体例

第一章 総則（第一条—第十条）  
第二章 基本的施策（第十一条—第十七条）  
第三章 人工知能基本計画（第十八条）  
第四章 人工知能戦略本部（第十九条—第二十八条）

📅 令和7年9月1日 施行 ★ 現在施行

Law RevisionID:507AC0000000053\_20250901\_00000000000000

令和七年法律第五十三号

人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する法律

目次

- 第一章 総則（第一条—第十条）
- 第二章 基本的施策（第十一条—第十七条）
- 第三章 人工知能基本計画（第十八条）
- 第四章 人工知能戦略本部（第十九条—第二十八条）

附則

第一章 総則

（目的）

第一条 この法律は、人工知能関連技術が我が国の経済社会の発展の基盤となる技術であることに鑑み、人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する施策について、基本理念並びに人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する基本的な計画の策定その他の施策の基本となる事項を定めるとともに、人工知能戦略本部を設置することにより、科学技術・イノベーション基本法（平成十七年法律第三十号）及びデジタル社会形成基本法（令和三年法律第三十五号）その他の関係法律による施策と相まって、人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図り、もって国民生活の向上及び国民経済の健全な発展に寄与することを目的とする。

（定義）

第二条 この法律において、「人工知能関連技術」とは、人工的な方法により人間の認知、推論及び判断に係る知的な能力を代替する機能を実現するために必要な技術並びに入力された情報を当該技術を利用して処理し、その結果を出力する機能を実現するための情報処理シ

ステムに関する技術をいう。

（基本理念）

- 第三条 人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進は、科学技術・イノベーション基本法第三章に定める科学技術・イノベーション創出の振興に関する方針及びデジタル社会形成基本法第二章に定める基本理念のほか、この条に定める基本理念に基づいて行うものとする。
- 2 人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進は、人工知能関連技術が、その適正かつ効果的な活用によって行政事務及び民間の事業活動の著しい効率化及び高度化並びに新産業の創出をもたらすものとして経済社会の発展の基盤となる技術であるとともに、安全保障の観点からも重要な技術であることに鑑み、我が国において人工知能関連技術の研究開発を行う能力を保持するとともに、人工知能関連技術に関する産業の国際競争力を向上させることを旨として、行うものとする。
  - 3 人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進は、人工知能関連技術の基礎研究から国民生活及び経済活動における活用に至るまでの各段階の関係者による取組が相互に密接な関連を有することに鑑み、これらの取組を総合的かつ計画的に推進することを旨として、行うものとする。
  - 4 人工知能関連技術の研究開発及び活用は、不正な目的又は不適切な方法で行われた場合には、犯罪への利用、個人情報漏えい、著作権の侵害その他の国民生活の平穏及び国民の権利利益が害される事態を助長するおそれがあることに鑑み、その適正な実施を図るため、人工知能関連技術の研究開発及び活用の過程の透明性の確保その他の必要な施策が講じられなければならない。
  - 5 人工知能関連技術の研究開発及び活用は、我が国及び国際社会の平和と発展に寄与するものとなるよう、国際的協調の下に推進することを旨とし、我が国が人工知能関連技術の研究開発及び活用に関する国際協力において主導的な役割を果たすよう努めるものとする。

（国の責務）

- 第四条 国は、前条に定める基本理念（以下「基本理念」という。）のっとり、人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する施策を総合的かつ計画的に策定し、及び実施する責務を有する。
- 2 国は、行政事務の効率化及び高度化を図るため、国の行政機関における人工知能関連技術の積極的な活用を進めるものとする。

（地方公共団体の責務）

第五条 地方公共団体は、基本理念ののっとり、人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関し、国との適切な役割分担の下、地方公共団体が実施すべき施策として、その地方公共団体の区域の特性を生かした自主的な施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（研究開発機関の責務等）



## 民間のAI開発を後押し、国保有データ活用しやすく、政府が法改正へ

2026/1/8 19:38

日本経済新聞 電子版

**民間による人工知能（AI）の開発を後押しするため、国が保有するデータの利用・活用をしやすくする関連法の改正案が判明した。**民間企業が国保有データを活用する際に国が事業計画を認定する制度を創設する。個人情報保護法の一部も改正し利用制限を緩和する。

政府は23日に召集される通常国会に改正法案を提出する見通しだ。AIの精度を高めるためには学習データが必要となる。利用できるデータの種類を拡大し、AI開発を加速させる狙いがある。

国保有データの利活用を希望する民間企業は国の指針に沿った事業計画を提出する。計画が適切かどうかを、個人情報保護委員会などの行政機関が協議し、認定する仕組みを整える。国の指針は首相が定める。民間企業に推奨する重点事業やデータの取り扱いを盛り込む。

個人情報保護については、これまで人種や病歴、犯罪履歴などのデータを第三者が利用する場合は本人の同意が必要とされていた。AI開発などを含む統計作成に使用する場合に限り同意なしで利用可能となる。

データの悪用を防ぐための措置も講じる。16歳未満の個人情報については、親権者など法定代理人の許可を得ることを求める。顔の特徴データについては利用停止をデータ提供者本人が事業者に求めやすくする。

不適切にデータを利用している事業者を確認した場合に個人情報などが勧告しやすくする。個人の利益が侵害された際には違反行為によって得たのと同等の課徴金をデータ利用者に納付させる。法定刑の引き上げなどで罰則も強める。

### データ活用や個人情報保護の関連法の概要

#### ▼促進策

本人同意が必要な個人情報の利用規制を緩和

AIが学習に使えるデータの種類拡大

#### ▼悪用防止

16歳未満の情報は法定代理人の合意必須

顔のデータの利用停止を事業者に求めやすく

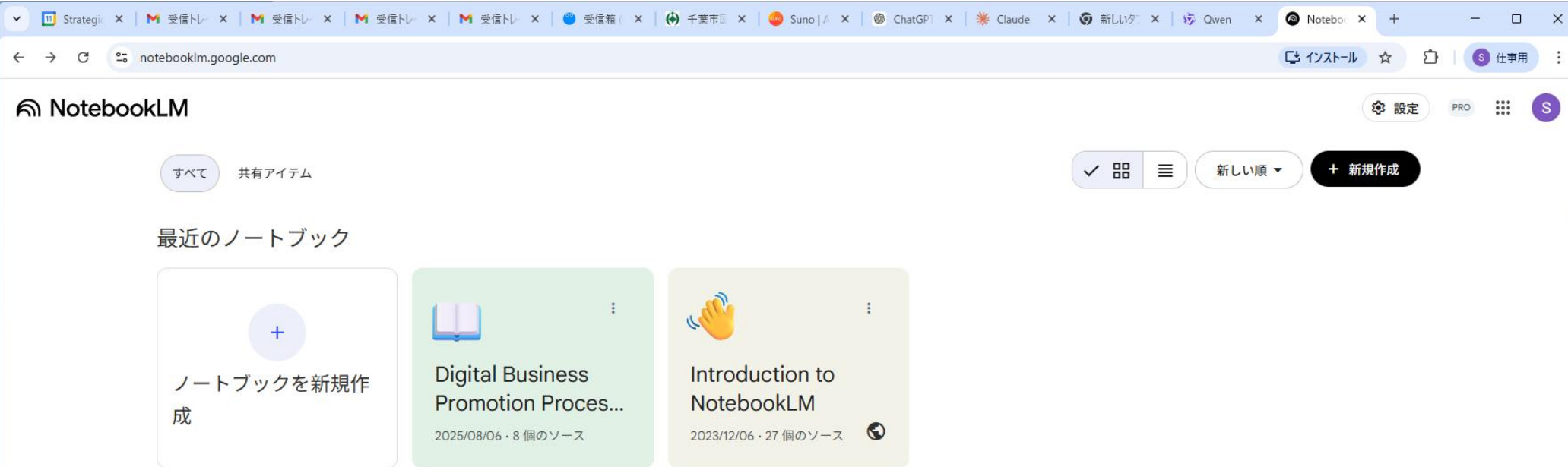
違反行為に課徴金、勧告しやすく

# 参考

2026年2月10日 テレビ東京 22時  
(BSテレビ東京 23時) WBSの「生成AI基盤モデルランキング」2025  
年にnoteに投稿された生成AI関連記事を分析してから

- 1 NotebookLM => 授業には  
<https://notebooklm.google.com/>
- 2 Qwen => ???  
<https://qwen.ai/home>
- 3 Claud => 製造現場には  
<https://claude.ai/login>
- 4 ChatGAP  
<https://chatgpt.com/>
- 5 SUNO => 音楽を作るなら  
<https://suno.com/home>

# 参考



<https://notebooklm.google.com/>

# 参考

The image shows a browser window with the URL `qwen.ai/home`. The page features a navigation bar with the Qwen logo and links for "Qwen Chat", "Research", and "API Platform". On the right, there are buttons for "EN", "Download", and "Try Qwen Chat". The main heading is "Ask Qwen, Know More". Below this is a large text input field with the placeholder text "Qwen에게 물어보세요 더 많이 알아보기" and a submit button. Underneath the input field are several category buttons: "Image Edit", "Thinking", "Search", "Web Dev", "Artifacts", "Deep Research", "Image Generation", and "Video Generation". At the bottom, there are three feature cards: "Qwen Chat" (described as an AI assistant for everyone), "API Platform" (described as an API compatible with other AI formats), and "Download" (with a "Download" button and text "Use Qwen on your phone or desktop.").

# 参考



<https://claude.ai/login>

課題解決者のための  
AI

 Googleで続ける

または

メールアドレスを入力

**メールで続ける**

続行することで、Anthropicの[プライバシーポリシー](#)に同意したものとみなされます。



# 参考

Strategic PM Offic x 受信トレイ (103,94) x 受信トレイ (128,84) x 受信トレイ (94,334) x 受信トレイ (2) - shc x 受信箱 (99+) - s... x 千葉市図書館 x Suno | AI Music x ChatGPT x + - □ x

chatgpt.com/?utm\_source=google&utm\_medium=paid\_search&utm\_campaign=GOOG\_C\_SEM\_GBR\_Core\_CHT\_BAU\_ACQ\_PER\_MIX\_ALL\_APAC\_JP\_JA\_120624&c\_id=21990698763&c\_agid=177552714942&c\_crid=783838... ☆ 仕事用

ChatGPT ログイン 無料でサインアップ

お手伝いできることはありますか？

AI

添付 検索 学習する 画像を作成する

最初の画像を作成しましょう  
アイデアがありますか？ 選び抜かれた新しいスタイルとフィルターの1つを試すが、一から想像してみましょう。

今すぐ試す

 カリカチュアレンド	 カムコーダー	 ネオンカラーのファ ンタジー	 ノーマン・ロックウェ ル風
---	---	--	---

AI チャットボットである ChatGPT にメッセージを送ると、規約に同意し、プライバシーポリシーを読んだことになります。cookie の設定を参照してください。

当社では cookies を使用しています

当社では Cookie を使用して、このサイトの円滑な運営、サービス利用状況の把握、マーケティング活動に役立てています。Cookie を管理でいつでも設定を変更できます。詳細については、クッキーに関するポリシーをご覧ください。

cookies を管理

必須項目以外を拒否する

すべて受け入れる

SUNO

サインイン

サインアップ

## 「同僚の遅刻」を歌うカントリー な音楽をつくる

簡単なプロンプトから始めても、プロ向けの編集画面を使ってもOK。次の一曲が、すぐそこに。

自由にアイデアを入力



Advanced



音楽をつくる

COMPLEX

Forbes

RollingStone

VARIETY

WIRED

ITコーディネータは「AI活用支援」案件において  
事業者とどのように向き合うか

